

# 平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜北高等学校 学校番号 2

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努める (2) 確かな学力を身につけさせるとともに、自ら考え行動できる力と創造的思考力を育成する。 (3) 豊かな人間性と社会性を育成するとともに、集団や社会の一員として地域社会に貢献できるたくましい実践力を育成する。 (4) 健康な体力づくりを推進する。 (5) 保護者や学校評議員等との連携を密にする。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	全般に高い評価をいただいているが、慢心することなく、保護者や生徒、地域の期待に応える本校教育に取り組む。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇確かな学力の育成 ◇コミュニケーション能力の育成 ◇豊かな人間性の育成 ◇保護者や地域との連携	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、特別活動部、家庭クラブ、国際交流係	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業改善の努力 (2) 「使える英語プロジェクト」 (3) NIEによる新聞記事比較活動 (4) 福祉・ボランティア活動の充実 (5) HPの活用による情報発信	(1) 生徒による授業評価 (2) 「使える英語プロジェクト」発表会 (3) NIE活動発表会 (4) 特別支援学校等との交流 (5) 地域、保護者からの反響	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時限毎の学習目標の提示</li> <li>・1年生を中心とした「使える英語プロジェクト」の展開</li> <li>・総合的な学習の時間を利用したNIE活動</li> <li>・生徒会等の特別支援学校・老人施設等との交流</li> <li>・有志による校外ボランティア清掃</li> <li>・初任者による特別支援学校への理科実験出前授業</li> <li>・HPの積極的な更新</li> </ul>	①学習目標を意識した授業実践ができたか。 ②「使える英語プロジェクト」発表会の評価はどうだったか。 ③生徒の中にNIE活動の成果は見られたか。 ④学校の取り組みを十分理解していただけたか。 ⑤地域、保護者からの反響はどうだったか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を意識した授業が、教師・生徒に定着した。</li> <li>○従来の英語教育を相対化する視点が職員の中に生まれた。</li> <li>○福祉・ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が増えた。</li> <li>○カトリン・ゲイブル校との交流を通じて、生徒の中に国際的な視野の広がりが見られた。</li> <li>●授業改善の組織的な取り組みの継続。</li> <li>●さらなる福祉・ボランティア活動への取り組み。</li> </ul>	総合評価 (A) B C D
12 来年度に向けての改善方策案 各教科における授業の充実と改善。 「使える英語」プロジェクトの継続・発展。 新聞を活用した総合的な学習の時間の活動の拡充。		

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努める (2) 確かな学力を身につけさせるとともに、自ら考え行動できる力と創造的思考力を育成する。 (3) 豊かな人間性と社会性を育成するとともに、集団や社会の一員として地域社会に貢献できるたくましい実践力を育成する。 (4) 健康な体力づくりを推進する。 (5) 保護者や学校評議員等との連携を密にする。	
2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒、保護者の本校の教育方針や教職員に対する信頼は非常に厚いものがあり、その期待に応えるべく、教職員の一層の資質向上を図る必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇確かな学力を身につけさせるための学習指導の推進。 ◇主体的な学習姿勢の確立。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、教科、学年会との連携。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業時間の確保 (2) 授業改善の取り組み (3) 特別編成授業の改善	(1) 年間授業時間数 (2) 生徒による授業評価 (3) 学習習慣の確立	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・週3回の7限授業の実施。 ・本時の学習目標の板書による意識付け。 ・1年生特別編成授業（英数国）の実施。 ・計画的な課題による、家庭学習の充実。	①授業時間は確保されたか。 ②十分に実施されたか。 ③高校での学習方習慣の確立は達成されたか。 ④家庭学習時間の調査と分析。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○授業時間の確保、授業規律の確立。 ○家庭学習時間の確保、提出物の期限厳守の徹底。 ●主体的な学習姿勢を喚起する知的な刺激に満ちた授業の工夫。 ●新学習指導要領によるカリキュラムの策定。	
12 来年度に向けての改善方策案 新学習指導要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくり。 授業改善のさらなる推進。		

総合評価  
(A) B C D

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努める (2) 確かな学力を身につけさせるとともに、自ら考え行動できる力と創造的思考力を育成する。 (3) 豊かな人間性と社会性を育成するとともに、集団や社会の一員として地域社会に貢献できるたくましい実践力を育成する。 (4) 健康な体力づくりを推進する。 (5) 保護者や学校評議員等との連携を密にする。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇生徒指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・身だしなみ指導の徹底と、生徒一人一人に応じた指導に徹していることに対する評価が高い。いじめや差別を許さない毅然とした対応への信頼にも厚いものがあり、今後もこの姿勢を堅持していくことが期待されている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇規範意識を高め、社会性を育成する積極的な生徒指導の推進。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会への積極的な参加と情報交換。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) イエローカードの導入 (2) 挨拶等の基本的な生活習慣の指導 (3) 携帯電話・交通安全に係る講話の実施	(1) 制服の着こなし (2) 挨拶の励行 (3) 安全意識の高揚

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イエローカードを活用し、全職員による統一的な身だしなみ指導を行った。</li> <li>・毎月5日間の挨拶運動。</li> <li>・全学年対象に交通安全講話、1年生対象に携帯電話の使用に係る講話を行った。</li> </ul>	①制服の着こなし等の改善はなされたか。 ②生徒の挨拶は定着したか ③交通事故件数は減少したか。 ④交通安全や携帯電話の使用に潜む危険性の啓蒙はできたか。	① A B C D ② A ③ B C D ④ A ⑤ B C D A ⑥ C D

11 成果・課題	○女子生徒のスカート丈等制服の端正な着こなしの定着。 ○日常の挨拶、言葉遣い、礼儀・態度の向上。 ○交通事故件数の減少。(昨年比56%) ●生命と人権を尊重する意識の高揚。 ●減少傾向にあった遅刻者数の増加。 ●要支援生徒への組織的対応	総合評価 A ⑦ C D
----------	---	-----------------

12 来年度に向けての改善方策案
職員全体の教育相談能力の向上のための研修会の実施。 交通安全指導を中心とした更なる安全意識の向上。 生命と人権を尊重する意識を高める講演会等の実施。 全職員による遅刻防止指導の徹底。

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努める (2) 確かな学力を身につけさせるとともに、自ら考え行動できる力と創造的思考力を育成する。 (3) 豊かな人間性と社会性を育成するとともに、集団や社会の一員として地域社会に貢献できるたくましい実践力を育成する。 (4) 健康な体力づくりを推進する。 (5) 保護者や学校評議員等との連携を密にする。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇進路指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・個々の生徒に応じた緻密な進路指導に対する信頼は高い。生徒、保護者の希望を重視しつつ、生徒の可能性を引き出してより高い志望を実現させるべく努める。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇より高い志望実現を支援する進路指導の推進。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会、教科との密接な連携。 ・大学との連携による進路意識の高揚。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 「潯標」「進路便り」の作成 (2) 難関大学見学会の充実 (3) 勉強合宿の実施 (4) 新聞記事を利用したスクラップブックの作成	(1) 進路に係る3年間の意識化 (2) 難関大学志望への動機づけ (3) 志望大学へのモチベーションの高揚 (4) 社会への関心の深化と、多様な物の見方への気づき

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した進路指導の道標ともいえるべき「潯標」や、各学年毎の「進路便り」を適宜作成し配布した。</li> <li>・現役合格主義に流されず、より高い志望を堅持させた。</li> <li>・首都圏難関大学見学会を実施し、本校OBによる案内やガイダンスを行った。</li> <li>・3年生対象に、夏季休暇を利用して勉強合宿を行った。</li> <li>・1年生対象に、新聞記事を利用してスクラップブックを作成し、記事のまとめや本人の意見に対する友人の意見を記入した。</li> </ul>	①十分に利用されているか。 ②もう一段高い進路志望決定に導くことができたか。 ③参加者数と意欲はどうか。 ④参加者数と意欲はどうか。 ⑤社会への関心が深まり、他者の物の見方への気づきが出来たか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D

11 成果・課題	○補習、学習室開放、パワーアッププリント等々の効果的な活用。 ○勉強への意識付けと習慣化のための勉強合宿の実施。 ○スクラップブックの作成からNIE活用への展開。 ●補助教材の戦略的な配置と精選の徹底。 ●学年会との有機的な連携の深化。	総合評価 A (B) C D
----------	--	-------------------

12 来年度に向けての改善方策案	教科書と補助教材を有効に配置した進路指導戦略の策定。 進路情報の収集や指導法をめぐる職員研修。
------------------	--

### 【意見・要望・評価等】

- ・大学生の就職難が取り沙汰される中、社会的な不安の反映が高校生にも見られるのではないか。こうした傾向に歯止めをかけるような指導をお願いしたい。
- ・受け身の学習姿勢からいかにして脱出させるか。国際交流等を通じて、そうした力を養ってほしい。
- ・NIE 活動を通じて社会への目を開く学習は評価できる。それに答えることのできる生徒たちも素晴らしい。
- ・時代によって人的ニーズの内容は変化している。それに流されないためには、「正解を求められる力」ではなく「考える力」を育てることが肝要だ。
- ・北高の生徒は、その端正な服装で地域でもすぐ見分けがつく。今後とも生徒指導の充実を図っていただきたい。